トラブルシューティング

この章は、次の項で構成されています。

- 最後の起動プロセスの記録，1 ページ
- 最後のクラッシュの記録，2 ページ
- DVR Player のダウンロード，3 ページ
- KVM コンソールで DVR Player を使用した録画ビデオの再生，4 ページ

最後の起動プロセスの記録

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。

ステップ 2 [Server] ペインの [TroubleShooting] タブをクリックします。

ステップ 3 [Troubleshooting] タブの [Bootstrap Process Recording] 領域で、[Enable Recording] チェックボックスをオンにします。
デフォルトで、このオプションは有効になっています。

注意 このタスクはトラブルシューティング目的のもので、常に有効にしていると Cisco IMC パフォーマンスに影響する場合があります。

ステップ 4 （任意） BIOS POST するまで起動プロセスを記録する場合は、[Stop On BIOS POST] チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [Save Changes] をクリックします。

ステップ 6 [Work] ペイン上部のツールバーで、[Power On Server] をクリックします。

ステップ 7 [Bootstrap Process Recording] ペインの [Actions] 領域で、[Play Recording] をクリックします。
サポートされている Java バージョンに関する手順を示した確認ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ 8 手順を確認し、[OK] をクリックします。

[DVR Player Controls] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスは、最後の起動プロセスの記録を再生します。[Stop On BIOS POST] オプションをイネーブルにしている場合は、システムは BIOS POST まで記録プロセスを再生します。

この記録を確認して、システムがリブートした要因を分析できます。

ステップ 9 [Bootstrap Process Recording] 領域の [Actions] 領域で、[Download Recording] をクリックします。
ダウンロードするには、手順に従ってください。

（注） ファイルがローカル ドライブに `.dvc` 形式で保存されます。KVM プレーヤーまたはオフラインプレーヤーを使用してこの記録を表示できます。[Download Recording] オプションを選択するたびに、最後の起動プロセスが記録され、ファイル名が自動生成され、事前に指定されたパスに保存されます。

ステップ 10 ダウンロードが完了すると、記録のビデオを再生するファイルを選択できるので、選択して [Open] をクリックします。
[DVR Player Controls] ウィンドウが開き、選択したファイルのビデオが再生されます。

最後のクラッシュの記録

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。

ステップ 2 [Server] ペインの [TroubleShooting] タブをクリックします。

ステップ 3 [Troubleshooting] タブの [Crash Recording] 領域で、[Enable Recording] チェックボックスをオンにします。

注意 このタスクはトラブルシューティング目的のもので、常に有効にしていると Cisco IMC パフォーマンスに影響する場合があります。

ステップ 4 [Save Changes] をクリックします。
[Actions] 領域の [Capture Recording] ボタンがイネーブルになります。

ステップ 5 （任意） [Actions] 領域で、[Capture Recording] をクリックし、自動的にクラッシュしたシステムの記録をキャプチャします。

（注） このオプションを選択すると、既存のクラッシュ レコードファイルが上書きされます。[OK] をクリックして作業を続行します。

ステップ 6 サーバ上で実行された操作の記録を表示するには、[Actions] 領域の [Play Recording] をクリックします。
サポートされている Java バージョンに関する手順を示した確認ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ 7 手順を確認し、[OK] をクリックします。

[DVR Player Controls] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスは、最後の数分にサーバ上で実行された操作の記録を再生します。この記録を確認して、システムがクラッシュした要因を分析できます。

ステップ 8 [Crash Recording] 領域の [Actions] 領域で、[Download Recording] をクリックします。
ダウンロードするには、手順に従ってください。

（注） ファイルがローカル ドライブに `.dvc` 形式で保存されます。KVM プレーヤーまたはオフライン プレーヤーを使用してこの記録を表示できます。[Download Recording] オプションを選択するたびに、最後のクラッシュ プロセスが記録され、ファイル名が自動生成され、事前に指定されたパスに保存されます。

ステップ 9 ダウンロードが完了すると、記録のビデオを再生するファイルを選択できるので、選択して [Open] をクリックします。
[DVR Player Controls] ウィンドウが開き、選択したファイルのビデオが再生されます。

DVR Player のダウンロード

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。

ステップ 2 [Server] タブの [Troubleshooting] をクリックします。

ステップ 3 [Troubleshooting] タブの [Player] 領域で、[Download Player] をクリックします。

ステップ 4 ダウンロードするには、手順に従ってください。これらのファイルは、ローカル ドライブに .tgz ファイル形式で zip 化されたファイルとして保存されます。
オフライン プレーヤーは、Windows、Linux、および MAC で保存されます。

ステップ 5 zip ファイルを解凍します。zip ファイルは通常、ブートストラップ ファイル下に保存され、名前は形式
`offline.tgz` に従います。

ステップ 6 ビデオ録画を確認したいスクリプト ファイルを開きます。

（注） Windows で録画を再生する場合は、システムで起動している Java バージョンとスクリプト ファイル内のバージョンが同じであることを確認します。Windows のスクリプト ファイルが録画を再生しない場合は、次の手順に従います。

a) Windows のスクリプト ファイルをデスクトップに抽出します。
b) メモ帳を使用してファイルを開きます。
c) jre を検索し、システムで起動しているバージョンと一致するよう Java バージョンを置き換えます。デフォルトでは、Java のバージョンは jre7 に設定されています。
d) ファイルを保存します。
Java のバージョンを更新したら、抽出したファイルをデスクトップから削除できます。

（注） Java のバージョンの検証は Windows OS にのみ必要です。Linux および MAC の場合は、Java のバージョンが自動的に選択されます。

ステップ 7 スクリプトファイルがダウンロードされるフォルダに移動し、ビデオ録画を再生するスクリプトファイルを開きます。
DVR プレーヤーが開始され、サーバ上で実行された操作のビデオが再生されます。

KVM コンソールで DVR Player を使用した録画ビデオの再生

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。

ステップ 2 [Server] タブの [Sensors] をクリックします。

ステップ 3 [Remote Presence] ペインの [Virtual KVM] タブをクリックします。

ステップ 4 [Virtual KVM] タブの [Actions] 領域で、[Launch KVM Console] をクリックします。
（注） [Work] ペインの上部に表示されるツールバーの [Launch KVM Console] ボタンをクリックして KVM コンソールを開始することもできます。
[KVM Console] が別ウィンドウで開きます。

ステップ 5 [KVM Console] ウィンドウで、[Tools] > [Recorder /Playback Controls] を選択します。
[DVR Player Controls] ウィンドウが開きます。

ステップ 6 [DVR Player Controls] ウィンドウで、[Open] ボタンをクリックします。

ステップ 7 記録を再生するファイルを選択し、[Open] をクリックします。
DVR プレーヤーが開始され、サーバ上で実行された操作のビデオが再生されます。